

「乳幼児健診について」（→ 詳しくは報告書の13ページ参照）

乳幼児健診について、度々市民オンブード報告で取り上げられていますが、今回は乳幼児健診の会場についてヒアリングしました。

保健センターはアクセスが悪いので「交通アクセスの良い場所や2か所に分けるなどして乳幼児健診を行うのはどうでしょう」と聞いてみました。

「市内他施設の検討をしましたが、従来の市民活動を優先するので決まった日程で部屋を確保するのが難しいです。また健診を行うには、安全性や受診しやすい導線が確保でき、一定の広さと部屋数を備えた会場が必要で、保健センター以外にそれに見合った会場の確保が困難です」とのことです、なかなか条件が整う場所がない実態がヒアリングを通じてわかりました。

物理的な難しさは理解できましたが、保健センターが不便な場所にあることは変わらず、時間帯なども含めて保護者には不都合な部分もありますので、市民の声を聞いて、今後でもできるところからの改善を期待いたします。

「男女共同参画センターについて」（→ 詳しくは報告書の20ページ参照）

平成30（2018）年10月3日に伊丹市と厚生労働省兵庫労働局が「雇用対策協定」を締結したとのことでした。平成29（2017）年度のオンブード報告内の『今年度の調査から（特集）』で特集（1）女性の就業について「事務系のスキルを上げる講座を開催しても、実際就ける仕事があれば意味がありません」と書きました。しかし令和2（2020）年から伊丹商工プラザの5階にオープン予定の男女共同参画センターでは就職に関する相談や求人情報を提供されるようですので、講座を受けた方がさらに仕事にもつながるように上手にハローワークを活用してもらい、さらなる女性の活躍の場の提供を期待します。

「SNSについて」（→ 詳しくは報告書の20ページ参照）

今回のヒアリングで、複数課において市の情報を知ってほしいが市民に行き届いていない現状がわかりました。正確な情報を提供していても、それに市民が気付かなければ意味がありません。ですので、各課が上手くSNSを利用して情報提供すると、平日市役所などに行けない方などにも情報が届きやすくなるのではないのでしょうか。

【問い合わせ】

伊丹市市民自治部共生推進室同和・人権推進課 TEL：072-784-8146 FAX:072-780-3519

下記のホームページには、用語解説や資料を含む「報告書」を「概要版」と合わせて掲載しておりますのでご参照ください。

市民オンブード調査報告書(平成23(2011)年度～30(2018)年度)

伊丹市ホームページ <http://www.city.itami.lg.jp/>

([オンブード調査報告書](#) [検索](#))



Youtube にオンブードについてケーブルテレビ収録時の映像を挙げています。

詳しくはこちら ⇒



伊丹市男女共同参画施策

市民オンブード報告（概要版）

（平成30（2018）年度事業内容）



伊丹市マスコット
たみまる

伊丹市長の委嘱により、市民の立場から本市の男女共同参画計画の進捗状況についてチェックする、伊丹市男女共同参画施策市民オンブードの平成30（2018）年度事業内容に対する報告書がまとまり、市長に提出されました。このリーフレットは、「報告書」の概要版です。

今回は、「重点施策」と「オンブードのこれだけは言わせて！！」の2種類にわけてみました。

（オンブード報告書の目次）

今年度の調査から（重点施策）

- （1）防災について
- （2）制服と校則について
- （3）子育て中の共働き世帯が参加しやすい行事・事業について

基本目標別具体的施策についてのオンブード評価

I 性別に関わりなくともに活躍できるまち

- 【基本目標1】ワーク・ライフ・バランスの実現と男女平等を推進する
- 【基本目標2】意思決定の場への性差に偏らない参画を推進する

II だれもが自分らしく暮らしつづけられるまち

- 【基本目標3】男女共同参画社会を支える市民の意識を高める
- 【基本目標4】性差に配慮した健康施策を推進する
- 【基本目標5】困難を有する女性などに対する施策を推進する

III 性別に関わりなく、だれもが安全で安心できるまち

- 【基本目標6】女性への暴力をはじめとするあらゆる暴力を根絶する
- 【基本目標7】男女共同参画の視点に立った災害の取り組みを推進する

IV 計画の着実な推進

- 【基本目標8】連携と協働により計画を推進する

くわしくは、中面へ！⇒

今年度の調査から（重点施策）

重点施策（1）

防災について

防災の中で大事な役割を果たす避難所は、平成29(2017)年3月に完成した「避難所運営マニュアル」に基づいて運営されます。こちらの避難所運営マニュアルですが、女性に対する配慮の記載があり、こちらは評価できます。昨年度は台風の時に土砂災害による被害を避けるため避難所が開設されましたが、災害の規模と避難者数に鑑み、女性に対する配慮の記載のある、避難所運営マニュアルをフル活用するような事態は起こりませんでした。

避難所は避難場所に指定された場所です職員、学校（教育委員会）、自治会などとともに市民の自発的参加によるボランティアで運営されます。その市民の地域防災力の担い手として、防災士育成事業を行っています。平成30(2018)年度は、助成対象者に5名中2名の女性がいたことは評価できます。災害が起こった時に現地で女性防災士は男女共同参画の視点を持った貴重な地域防災力の担い手となりえますので、女性防災士の育成に力を入れていただきたいと思います。また、一般市民にも、引き続き、防災ワークショップを開催し、男女共同参画の視点にも触れていただきたいと思います。

オンブードのこれだけは言わせて！！

「昨年度の報告をふまえて：中学校におけるコートやタイツの原則禁止について」
(→ 詳しくは報告書の 6 ページ参照)

私たち市民オンブードは、昨年度に取り組んだ『市民オンブード報告（平成 29（2017）年度事業報告書）』（平成 30（2018）年 11 月刊行）の「制服に関わる校則の見直しについて」の中で、本市の公立中学校では、冬に基本的には生徒にコートやタイツを着用させておらず、個人の申し出があれば対応するというかたちをとっていることを問題視し、報告書にその理由について明記しました（同報告書 10 ページ参照）。昨年度のオンブード報告を行ってから、一年が経過しましたが、状況は改善されていません。「冷えは万病のもと」といわれ、体を冷やすと、自律神経やホルモンバランスの乱れ、血行不良、免疫低下、集中力の低下等といった健康面を考えると、女子のストラックスの着用を促す必要があると考えます。

「伊丹市の介護現場の現状」(→ 詳しくは報告書の 10 ページ参照)

伊丹市において、介護者（介護する側の人）の 3 人のうちの 1 人が男性になっています。高齢夫婦世帯の増加や「嫁」や娘がいない、または従来のように必ずしもそれらの人に頼れない世帯が増えてきていることが主な理由です。

伊丹市は固定的性別役割分担意識（「男性は仕事、女性は家事・育児・介護」という意識）が強いのですが、現在 60 歳以上の男性の多くは家事・育児・介護を女性の役割としてとらえてきた世代です。その結果、妻や親の介護が負担になり、介護サービスに依存しすぎたり、自分の思い通りにならない事によるストレスが虐待を誘発したりしています。性別に関わらず、若い頃から仕事だけでなく家事等も担ってきた人は、介護もうまくこなす傾向があるようです。

「ワーク・ライフ・バランス」という言葉がありますが、若いころからの仕事と家庭の両立が、介護の成功のカギとなると考えます。今後は、そのような観点からの若年層への啓発教育も必要でしょう。

「伊丹市にも多いひきこもりの問題点」(→ 詳しくは報告書の 11 ページ参照)

地域包括センターの職員が、被介護者（介護される側の人）の家庭を訪問すると、実は長年ひきこもっている子どもがいることがわかるという場面が少なくないようです。これがいわゆる「8050 問題」または「9060 問題」といわれるものです。子どもが引きこもっている理由として、軽い障害があるため、親が扶養し続けてきた、社会になじめない、仕事もうまくいかない等があるそうです。こうした子どもの場合、特に男性（息子）が多いようですが、「男は強くあるべき、働いて家族を養うべき、仕事で成功すべき」等、固定的性別役割分担意識が強いプレッシャーになっているのではないかと考えられます。したがって、こうした男性のひきこもり問題も、男性の固定的性別役割分担意識からの解放が不可欠だと考えます。

「セクシュアル・マイノリティ教材について」(→ 詳しくは報告書の 12 ページ参照)

小学校における人権学習として、児童らが多様化する社会についての理解を深めることを目的に、性の多様性、性的指向、性的自認等に関する教材と、教員向け指導案を作成され、平成 30 年度より市内の全小学校および中学校で授業を実施されています。このような授業を実施している自治体は全国的に見ても数少なく、画期的な取り組みですし、大いに評価できます。

一方で、学校生活の中で、係や当番の決め方、校則、さらには教材などにジェンダー問題が隠れていること、すなわち「隠れたカリキュラム」の問題はまだ残っていると思われます。教員向けに、ジェンダー問題に関する研修や講座を実施し、そのような問題に敏感になる力を養い、改善に努めていただければと思います。

重点施策（2）

制服と校則について

いわゆる「性的マイノリティ」の間で自死念慮の割合等が高いことがかねてより指摘されており、文部科学省は学校園での性の多様性への理解を求めています。

自らのセクシュアリティに悩む子どもたちに寄り添うために、児童・生徒の性別にかかわらず、希望に応じてストラックスを選択できるようにすることが合理的だと考えます。この点について、市内の一部の学校で制服の変更に関わる変化の兆しがあると聞いており、大変歓迎すべきことです。

また、女子の冬場のスカート着用による冷えを原因とした自律神経やホルモンバランスの乱れ、血行不良、免疫低下、集中力の低下等といった健康面を考えると、女子のストラックスの着用を促す必要があると考えます。

ストラックス着用に限らず、子どもたちのセクシュアリティや健康に配慮する動きや、男女共同参画やジェンダーの観点からの校則の見直しの動きが市内の学校園に広がり、子どもたちがのびのびと学校生活を送れるようになることを期待しています。

重点施策（3）

学校等の行事について

平日に開催される学校行事の一例として、小学校の入学説明会と家庭教育学級があります。

中学生になる前の小学校 6 年生が体験するオープンジュニアハイスクールでは、模擬授業を受けられたりして、おもしろい試みをされていると思いました。小学校入学前の未就学児に行う入学説明会については、実際に参加してみての感想で、子どもたちは入学する小学校の雰囲気を味わえる一方、保護者に対しては配布した資料を読み上げるだけで時間が無駄とを感じる部分もありました。

家庭教育学級については、子どもたちが興味を持って小学生になる心得を聞くことができる一方で、学校の規模にもよりますが、冬の寒い体育館で長時間上演されていますので、冷えから来る体調の心配もあります。入学説明会以外の行事・事業でも言えることですが、共働き世帯が増えつつある今、効率的で充実した時間が過ごせるように、これらの内容について今一度精査と、効率化に向けて検討していただきたいです。



藤原市長にオンブード報告書を提出するオンブードの方々